

資料 3

対策の事例

ここでは、対策の事例として、事故多発地点における対策実施状況に基づき、対策内容および実施上の留意点についてとりまとめた。

【道路管理者の対策】

＜道路構造＞

- ①隅み切り半径の縮小 資料 3-1
- ②右折専用車線の増設（2車線化） 資料 3-2
- ③交通島の設置 資料 3-3

＜中央帯＞

- ④中央ゼブラ帯の設置 資料 3-4

＜路面標示・区画線＞

- ⑤指導線の設置（右折、直進誘導線） 資料 3-5
- ⑥区画線の高輝度化（バイブラ化） 資料 3-6

＜舗装＞

- ⑦路面舗装のカラー化 資料 3-7
- ⑧排水性舗装の導入 資料 3-8
- ⑨段差舗装の導入 資料 3-9

＜その他＞

- ⑩自発光式視線誘導標の設置 資料 3-10

【公安委員会の対策】

＜信号機＞

- ⑪信号灯器の大型化 資料 3-11

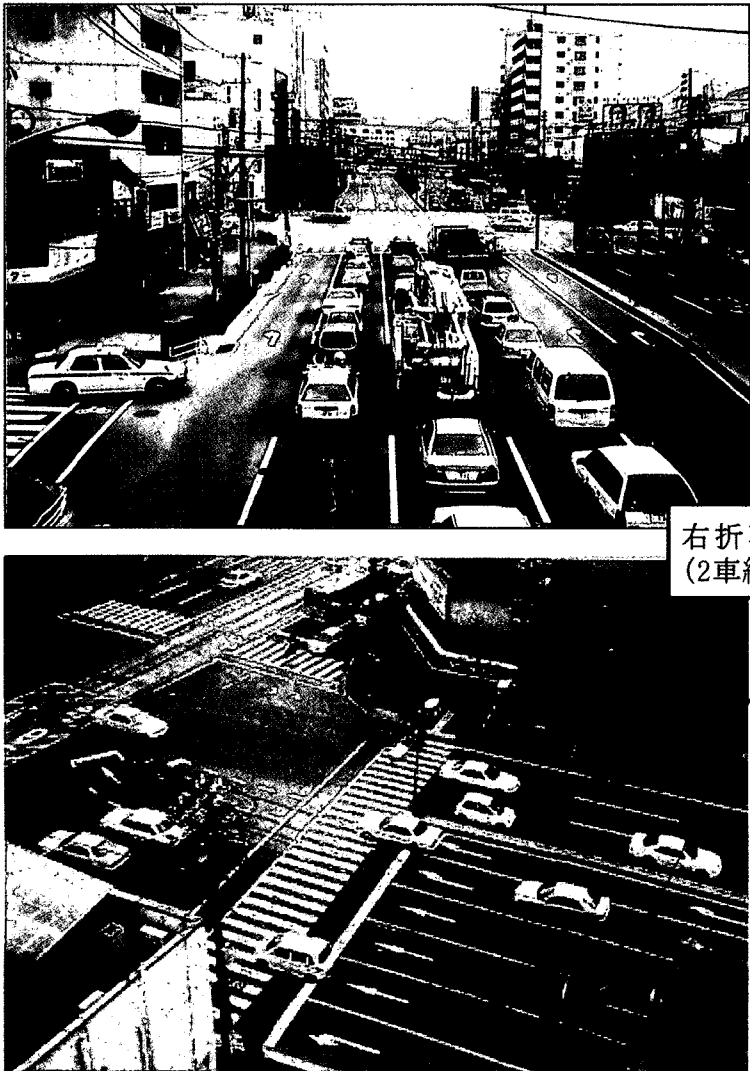
＜路面標示＞

- ⑫横断歩道の前出し 資料 3-12

＜その他＞

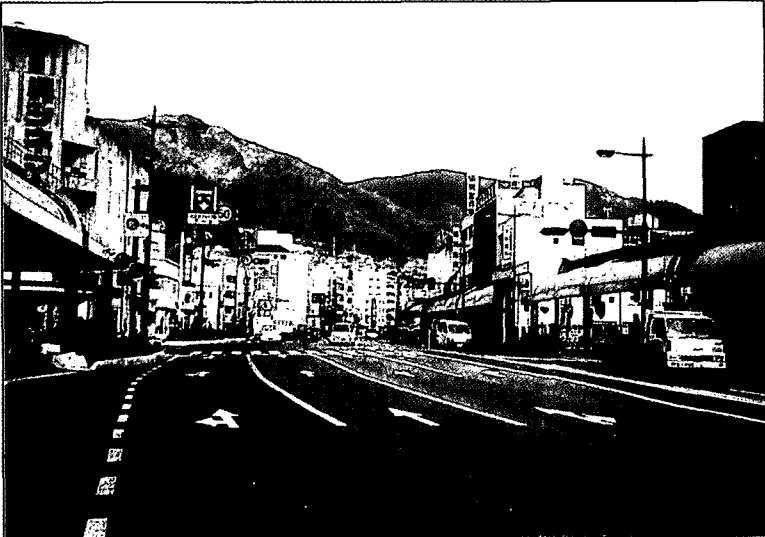
- ⑬対向車接近表示板の設置 資料 3-13

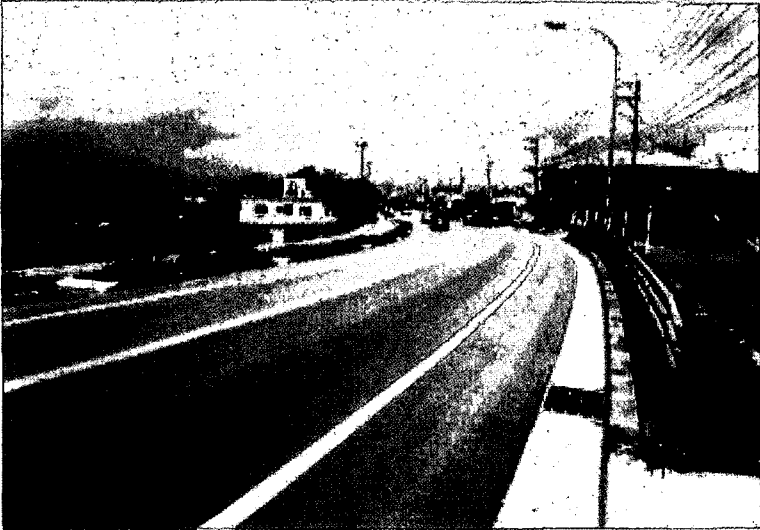
対 策 名	①隅み切り半径の縮小	目 的	速度抑制
<対策箇所> 隅切り半径が大きく、左折車の走行速度が高い箇所			
<対策内容> 隅切りを張り出して交差点面積を縮小することで、左折車の速度抑止につながる。			
<留意点等> 隅切り半径を大幅に縮小すると、左折車の円滑な走行が阻害され、交差点の交通容量低下につながる。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 左折時、横断歩道横断中			
<対策写真>			
※写真上下：京都国道事務所_国道 24 号_京都府京都市伏見区竹田久保町（263366k）			

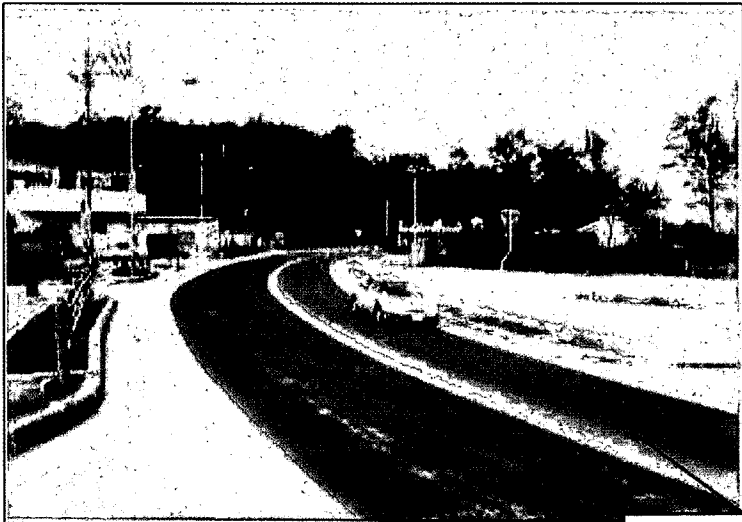
対 策 名	②右折専用車線の増設 (2車線化)	目 的	交通容量増加
<対策箇所> 右折の需要が多く、右折するために長時間の待ち時間となる箇所			
<対策内容> 右折車線を増設することで右折の捌け容量が増加し、待ち時間が短縮されるため、無理な右折行動が抑制される。			
<留意点等> 右折車線が2車線以上ある場合は、外側の右折車両が右折しようと待機すると、内側の右折車から対向直進車の視認性が悪くなる。このため、本対策実施にあたっては右折車と対向直進車を分離する右折直進分離信号の導入も組み合わせて検討することが望ましい。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 右折時、横断歩道横断中			
<対策写真>  右折専用車線増設 (2車線化)			
※写真上下：広島国道事務所__国道2号__広島県広島市中区舟入本町（343108k）			

対 策 名	③交通島の設置	目 的	車両誘導
<対策箇所> 広大な交差点のため、車両の走行位置が不明確な箇所 または、歩行者の横断距離が長くなる箇所			
<対策内容> 交差点に導流島を設置することで車両の走行位置を明確にし、車両の円滑な走行に繋げる。 また、導流島の設置による歩行者の保護とともに、横断距離が短縮となることから車両と歩行者の交錯機会を減少させる。			
<留意点等> 左折導流路のように曲線半径の小さい区間では、大型車の回転半径を考慮すると導流路幅員が広くなりやすく、小型車が並進するような場合が出てきやすいので、ゼブラマーキングを用いて幅員を狭くする必要がある。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 横断歩道横断中、左折時、右折時			
<対策写真>			
※写真：熊本国道事務所_国道3号_熊本市迎町2（433170k）			

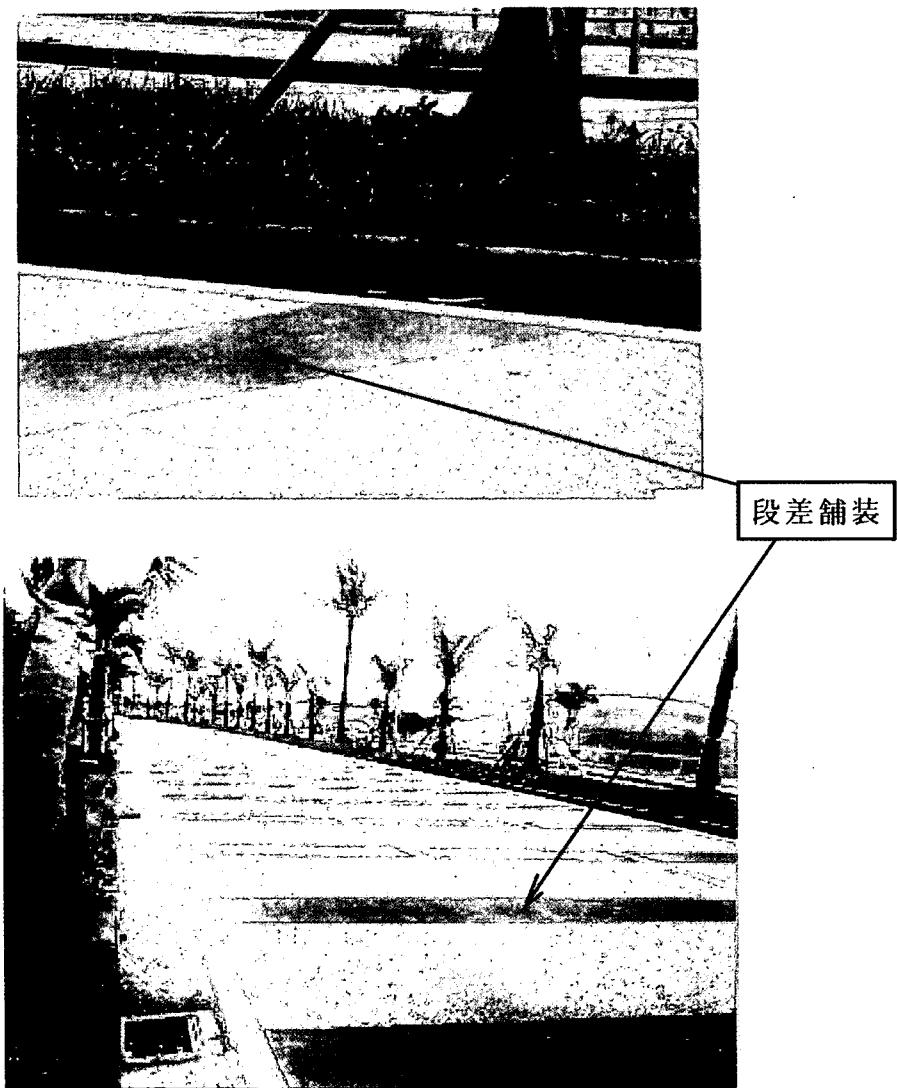
対 策 名	④中央ゼブラ帯の設置	目 的	その他
<対策箇所> 右折車が後続直進車を阻害する状況が頻発する箇所			
<対策内容> 中央にゼブラ帯を設置することで、沿道施設および細街路等へ入る右折車の滞留スペースを確保し、後続直進車の走行阻害を防止する。また、後続直進車のプレッシャーを受けた無理な右折行動を抑制する。			
<留意点等> 中央ゼブラ帯の幅員を確保するためには、車道幅員や路肩幅員等を縮小する必要がある。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 追突、右折時			
<対策写真>   中央ゼブラ帯の設置 ※写真上下：鹿児島国道事務所_国道 225 号_鹿児島県鹿児島市上福元町（463106t）			

対 策 名	⑤指導線の設置 (右折、直進誘導線)	目 的	車両誘導
<対策箇所> 交差点面積が大きく交差点内での走行軌跡が不安定となる箇所			
<対策内容> 交差点内に走行すべきラインを破線で明示し、各車両の走行軌跡を安定させる。また、右折車には対向直進車の通過を待機する位置（右折停止線）を明示し、右折車と対向直進交通との交錯を防止する。			
<留意点等> 指導線の設置位置と実際の走行軌跡がズレている箇所も見られるため、設置にあたっては、無理がないようになるべく実態に即した明示とする。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 右折時、追突			
<対策写真>   ※写真上下：広島国道事務所__国道 185 号__広島県呉市本通 4 (343136k)			

対 策 名	⑥区画線の高輝度化 (パイブラ化)	目 的	車線逸脱防止・視線誘導
<対策箇所> 急なカーブ等の対向車線へはみ出す可能性がある箇所 長い直線区間等の漫然運転、居眠り運転等となりやすい箇所			
<対策内容> 中央線および外側線の線上に凹凸の突起物を付けることで、タイヤが区画線を踏むと音が鳴るため運転者への注意喚起となる。また、夜間および雨天時（路面湿潤時）にはヘッドライトが突起物に反射するため、運転者への視線誘導となる。			
<留意点等> 本施策は振動を与えると同時に騒音が発生するため、住居系地域等の設置にあたっては十分な検討が必要である。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 車線逸脱、正面衝突、追越追抜時			
<対策写真>   区画線の高輝度化			
※写真上下：南部国道事務所_国道 58 号_沖縄県恩納村字恩納（473105t）			

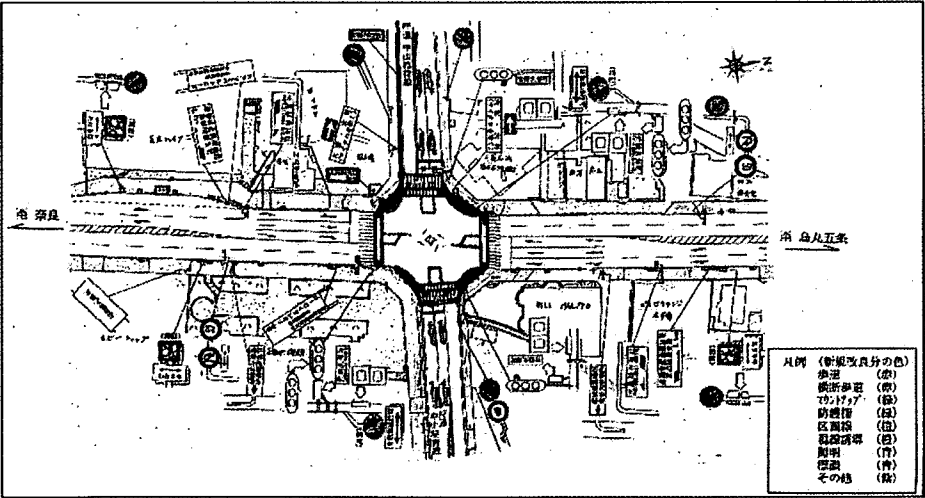
対 策 名	⑦路面舗装のカラー化	目 的	注意喚起
<対策箇所> 急なカーブ区間等、事故が多発する可能性が高い危険な箇所			
<対策内容> 路面舗装に色をつけることで運転者に対して注意喚起し、危険認識を高める。			
<留意点等> 交通量が多い箇所や見通しが悪い箇所では、危険箇所の路面カラー舗装しても、本対策に対する運転者の認知が遅れる。この場合は、危険箇所の手前から実施することが望ましい。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 車線逸脱、正面衝突			
<対策写真>   路面舗装のカラー化 ※写真上下：南部国道事務所_国道 58 号_沖縄県恩納村名嘉真（473103t）			

対 策 名	⑧排水性舗装の導入	目 的	滞水防止
<対策箇所> 雨天時には路面滞水しやすく、路面マーキングが見え難くなる箇所 長い直線区間等、高い速度で走行するため、水しぶきがあがりやすい箇所			
<対策内容> 排水性舗装は舗装中にすき間をつくって「あわおこし状」とし、雨天時等では路面の表面に水がたまらない等、排水性を高めることで、夜間におけるヘッドライトの乱反射抑制による区画線等の明確化、および高速走行時の水しぶきの抑制による視認性確保を図る。			
<留意点等> 排水性舗装はすき間が詰まる（ゴミや砂等）ことで機能が低下する恐れもあり、路面のメンテナンス（洗浄等）を十分に行う必要がある。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 車線逸脱、正面衝突、追突			
<対策写真> 凡例（新設改良分の色） - 歩道（赤） - 横断施設（赤） - マンホール（緑） - 防縁線（緑） - 区画線（黒） - 道路境界線（青） - 路肩（青） - 標識（青） - その他（黒） 排水性舗装の導入			
※写真：名古屋国道事務所_国道 22 号_愛知県一宮市中島通 3 丁目（233147k）			

対 策 名	⑨段差舗装の導入	目 的	速度抑制・注意喚起
<対策箇所> 下り勾配等で速度超過しやすい区間 長い直線区間等で漫然運転、居眠り運転等となりやすい箇所			
<対策内容> 路面上に薄い層（凸型）を付け、車両（運転者）へ振動を与えることで、運転者への速度抑制および注意喚起を図る。			
<留意点等> 薄層舗装は振動を与えると同時に騒音が発生するため、住居系地域等の設置にあたっては十分な検討が必要である。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 車線逸脱、正面衝突、追突			
<対策写真> 			
※写真上下：南部国道事務所_国道 329 号_沖縄県嘉手納町字野国（473101t）			

対 策 名	⑩自発光式視線誘導標の設置	目 的	視線誘導・速度抑制
<対策箇所> 道路線形が把握し難い、急なカーブ等の箇所 急なカーブにかかわらず速度の高い箇所			
<対策内容> 視線誘導標を車両の流れにそって点滅（自発光）させ、カーブ部等で運転者への線形誘導を行う。また、点滅させる光の流れを適正な速度とすることで車両の速度抑止を図る。			
<留意点等>			
<ターゲットとなる主な事故類型> 車線逸脱、正面衝突			
<対策写真> 自発光式視線誘導標の設置 ※写真上下：静岡国道事務所__国道1号__静岡県三島市笹原新田字申山 246～塚原新田字倉沢 339-3（223103tt）			

対 策 名	⑪信号灯器の大型化	目 的	視認性向上・注意喚起
<対策箇所> 信号機を見落としやすい箇所 信号無視等の悪質な運転行動がみられる箇所			
<対策内容> 信号機の灯器を通常より大型にすることで、信号機の視認性を向上させるとともに、車両の通行権（赤信号は止まれ等）を強調し、運転者への注意喚起を図る。			
<留意点等> 青灯器、黄色灯器、赤灯器の3つを大型化するのが一般的であるが、なかには赤灯器のみ大型化している事例も見られる。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 出会い頭、追突			
<対策写真>  信号灯器の大型化  ※写真上下：岐阜国道事務所_国道 258 号_岐阜県大垣市和合新町（213175t）			

対 策 名	⑫横断歩道の前出し	目 的	視認性向上
<対策箇所> 見通しが悪い交差点で、左折車から横断者の確認がしづらい箇所			
<対策内容> 横断歩道を交差点中心側へ移設することで、横断者に対する右折車および左折車からの視認性が向上される。			
<留意点等> 横断歩道を前出し過ぎると、左折車が左折時に歩行者の横断待ちをする場合、後続の直進車が滞る場合があることが懸念される。 また、右左折時に歩行者を発見してから止まるまでの距離が短く、歩行者を発見しても安全に停止することができずに、横断者と衝突することも懸念されるため、極度の前出しは避けるべきである。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 左折時、横断歩道横断中			
<対策写真>  凡例（新規改良分の色） - 歩道 (赤) - 横断歩道 (青) - 待合所 (緑) - 防壁 (黄) - 区画線 (白) - 道路境界線 (黒) - 側溝 (青) - 排水口 (青) - その他 (黒)  横断歩道の前出し ※写真：京都国道事務所_国道 24 号_京都府京都市伏見区竹田久保町（263306k）			

対 策 名	⑬対向車接近表示板の設置	目 的	注意喚起・車線逸脱防止
<対策箇所> 急なカーブ等、視距が十分に確保できない箇所			
<対策内容> カーブ手前の情報板で対向車が接近している場合には「対向車注意」と表示し、運転者への注意喚起を行うことで、対向車線へはみ出した走行（無理な追い越し等）を防止する。			
<留意点等> 本事例では、対向直進車が存在しない場合は、「速度注意」等と表示し、運転への注意喚起をしている。			
<ターゲットとなる主な事故類型> 正面衝突、車線逸脱、追越追抜時			
<対策写真>   対向車接近表示板 の設置 ※写真上下：函館開発建設部__国道5号__北海道亀田郡七飯町字西大沼（13115t）			